漢蕃對音千字文の斷簡

（圖版第一一圖　參照）

一九〇八年ペリオ（Pelliot）氏が敦煌の千佛洞から獲た文書の中に、千字文の一々の字傍左側に西藏文字で其の字音を對記したものがあつて、今巴里の Bibliothèque Nationale にペリオ蒐集敦煌文書漢文の部三四一九として收藏せられてゐる。茲に寫眞して載せたものは卽ちそれで、題記の名は便宜自分の與へたものである。此の文書は寫眞を見ても大略想像の出來る通り、甚しく汚損して居つて、原本に就いても讀み惡い所が少く無いが、それでも殘存の四十六行（各行十三字を收めたものであるが、完全に存するものは僅に一行のみである）の文字は、寫眞に就いてもほぼ讀むことが出來る。滯佛の當時、原本に據りて仔細に西藏字の字劃を書寫する暇を有し無かつた自分は、自分の撮つたこの拙劣な寫眞を基にして本稿を草しなければならぬことを今更甚だ殘念に思ふが、同時にまた其の當時匆忙の間にかかる寫眞でも撮る事を得て、今日同學の士の一餐に供し得ることを喜ばしくも思ふ。念の爲に二通撮つて置いた寫眞が（原板はともにモリソン文庫に藏せられる）果して間に合つて、こゝに載せた所に讀み難い文字を、別の一通に依つて讀み得るものも少く無い。二通を照合しても尙ほ讀み難いものは必ず（？）の記號を附して置いたが、原本に就けば此等の疑問の解明を得るものもあらうし、また此等以外に自分の讀んだ所を補正すべき點もあらう。獨り原本に就いてのみならず、此の寫眞に據つて自分の誤讀の訂さるべき所があるかも知れない。此等の點は偏に讀者の